

五 省

長野県下伊那郡豊丘村
教育委員長



教育随想



平成15年4月1日

4 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | | |
|---------------------------|-------|---|
| 教育随想 | | ① |
| 長野県下伊那郡豊丘村教育委員長 毛涯 章平氏 | | |
| この人に聞く | | ② |
| 駒澤大学陸上競技部主将 内田 直将氏 | | |
| 羅針盤 | | ② |
| 連尺小学校 | 杉浦 博司 | |
| ふれあい | | ③ |
| 矢作東小 | 前田 康幸 | |
| 甲山中 | 佐橋 康仁 | |
| 特集 | | ④ |
| 平成15年度 学校教育の視点 | | |
| お知らせ | | ⑥ |
| フォト・ヒストリー | ... | ⑧ |
| 4 Hクラブ発足 (昭和26年) | | |
| この本を | | ⑧ |

毛涯 章平 氏

私の村は、小さな農山村でありまして、昭和十年から三十年頃まで、青年学校が設けられ、年間通じて隔日に夜学を行っておりました。

生徒の大部分は、多忙な家庭事情をかかえ、^{はげ}烈しい勤労に従事しているにもかかわらず、夜学を楽しんで一里も二里もの山道を通ってくる姿は、涙ぐましいものであったといえます。

先生たちは、こうした青年たちと時には火鉢を囲み、ひざを交えて家庭の問題や人生の悩みを聞き、真剣に話し相手になってやるのでした。

そうして、毎夜の学習が終わると『五省』という反省の時間があったて、静座瞑目^{めい}してこれを朗唱し、今日一日の生活を反省して放課となったのです。

五 省

今日一日の旅を正に終えんとす。吾、天地神明の前に心を整えて、明日のより高き旅路に備えんと欲す。

- 一、使命の自覚に悔なかりしか。
- 一、身心智能の^{かんよう}涵養に不足なかりしか。
- 一、言語^{かた}りて真実に欠くるなかりしか。
- 一、行動^{おこな}いて懸命に遺憾なかりしか。
- 一、神と親（祖先）とを敬愛^{うやま}いて恥ずるなかりしか。

これを唱えた後、寒夜の家路を急ぐ彼等の姿を思うとき、若者たちが、なんと高志を掲げ^{しんし}真摯に生きようとしていたかに、感動を覚えます。

この『五省』こそ、時を超え所を問わず、不滅の人生訓であると信じます。

(けがい しょうへい)



この人に聞く

ふるさとシリーズ



▲1区六郷橋でラスト・スパート

チームワークでつなぐ 一本のたすき

駒澤大学陸上競技部主将

内田 直将 氏

「中学、高校、大学と一区を任されることが多いですね。自分の持ち味はラスト・スパートなんです。一区はゴールと同時に結果が分かるからでしょうか。でも、来年は花の二区を走ってみたいですね。」

今年の箱根駅伝、優勝を果たした駒澤大学で一区を走り、見事区間賞に輝いた内田さんに母校である竜海中学校でお話を伺った。

「箱根を走りたいという思いはずっとありました。だから、一年生のときは走れたのに二年生で走れな

ったのは、めっちゃめちゃ悔しかったですね。直前の練習で思うように走れず、前日にメンバー交代を言い渡され、悲しいというよりもつらく挫折した思いでした。」
悔しい思い出も実に正直に、さわやかに話される。

「中学時代、野球部に所属しながら駅伝を続けていたんですが、二年生のとき、監督から勧められ、陸上部に移りました。でもそのときの県大会では惜しくも二位。そして翌年、全国六位を獲得しました。」

竜海中学校校長室に掲げられている第四回全国中学校駅伝大会の記念パネルを見つめる目に懐かしさが溢れている。

現在、東京で寮生活を送っており、監督の許可がないとなかなか岡崎にも戻れないそうである。

「早朝の練習から授業後の練習までメニューをみっちりこなします。水・土曜日は実戦的な練習があり、タイムも計られます。練習で走れないと使ってもらえないのは当たり前ですからね。代わりがいっぱいいるので試合より練習の方が競争が激しいですね。記録が伸び悩んだり練習が思わしくなかったりすると寮を出されてしまうんですよ。」

この厳しい勝負の世界で、主将を任せられ、来年度の箱根駅伝に闘志

を燃やしておられる。大会では何を考えながら走っているのかという質問に、

「よく聞かれるんですよ。やっぱり、どこで仕掛けようかという作戦かな。後ろを気にして振り返ることもありますね。」

と、笑顔で話される。そして、駅伝の魅力を次のように語られた。

「チームで一つの目標に向かって、たすきをつないでいくことです。」

自分のことをすごく負けず嫌いだと評される内田さん。夢はオリンピック出場だそうです。同席していただいた中学時代の恩師から、だれからも好かれる人気者だったことも教えていただいた。一流選手であるための資質を垣間見た思いであった。

氏名 うちだ たかまさ
生年月日 昭和五十六年十月十七日
住所 明大寺町池下三十八―二



確かな学力の向上を

連尺小学校

杉浦 博 司

平成十四年四月、「ゆとり」と「生きる力」をキーワードに新しい学習指導要領が全面実施されました。

それに先立って、一月には、文科省から「確かな学力向上のための二〇〇二アピール」が示されました。

これを受けて各学校は、「確かな学力」の向上を重要な実践課題として、様々な取組をしてきました。

今、十五年度の出発を迎えるに当たり、この課題の、よりよい解決を目指して、次の基本的な観点から着実な取組を始めたいものです。

◇確かな学力観を

「確かな学力」とは、もちろん学習指導要領の「自ら学び、考える力」と「基礎的・基本的な内容の確実な定着」を指しています。要は「各教科・各学年の学習内容・学習方法にかかわる基礎・基本」の洗い出しと

浄瑠璃姫に挑む

矢作東小 前田 康幸

「学芸会で一度もやったことのないものをやることになったけど、こ
うなったらやってみせる」

私が迷いながらも「学芸会で浄瑠璃姫をやってみるか」と子供たちに呼びかけた次の日、A子は、日記にこう書いてきた。子供たちは矢作の歴史について調べていく中で学区にある誓願寺の住職さんから聞いた義経と浄瑠璃姫の伝説に関心を持ってきた。岡崎公園から誓願寺まで着物を着て練り歩く「浄瑠璃姫道中」にも進んで出たいと言ってきた。引っこ込み思案なA子には考えられないことだった。練習中も私が動きなどを



考えていると、「先生、このせりふ
こうした方がいいよ」と進んでせり
ふや動作を考えてくれた。A子の顔
がどんどん輝きを増すように感じら
れた。

そして、学芸会本番。A子は力い
っぱい演技をした。私はA子をはじ
め学級の子供たち全員に心から拍手
を送った。翌日のA子の日記には次
のように書かれてあった。

「小学校最後の学芸会。とてもい
い思い出になりました。やってよか
ったです。」



俺、高校行きたい

甲山中 佐橋 康仁

四月、A男を私が担任することに
なった。彼は一年生から何かにつけ
て、目立つ生徒であった。直接的、
間接的に支えてくれた先生方のお陰
で、三年生を迎えることができた。

当初は話しかけても「うん」とか
「分かった」といった単語が返って
くるばかりで、彼との距離が縮まら



ない。生
活指導や
進路など、
避けて通
れない話
は、二人
だけで話
したり、
食事を共
にしたり
した。

「俺、高
校行きたい。でも、一年のときさば
ったからだめだ。」

ぼろりと本音が漏れる。

「そんなことはない。少し勉強を
やってみるか。付き合うよ。」

「先生、いいの。」

夏休みや休日に、一、二時間では
あるが勉強会が始まった。他の先生
方の応援もあった。次第に彼の表情
が変わってきた。

「三年生頑張るぞ。エイエイオー。」

三年生が主体の体育大会閉会式は、
彼の力強いエールで幕を閉じた。観
客や全校生徒の前で彼は輝いていた。
私の胸が熱くなった。

「甲山中学校出身、A男です。」

三学期、高校受験を控え、面接練習
をするA男の堂々とした姿があった。

体系化、さらに、「自ら学び、考え
る力」との関連性をどうとらえ、指
導に当たるかということですが。

◇よりよい授業づくりを

確かな学力向上のためには、授業
の質的転換が肝要です。その実現に
向けて次のような視点を考えます。

- ・学習意欲の喚起
- ・ねらいとする学力の明確化
- ・ねらいに添った学習の焦点化
- ・学び方の習得
- ・学習状況の把握と評価の工夫

よりよい授業づくりは、教師にと
って永遠の課題です。今の時代であ
るからこそ、特に一時間一時間の授
業を大切にしたいものです。

◇教師としての力量の向上を

教師が変わらなければ授業が変わ
りません。教師としての使命感と愛
情を基盤に、常に授業研究や知識、
教養を高めるなどの研修を重ねなが
ら、学力のための実践的指導力を高
めることが大切です。

「格に入りて格を出る」というこ
とわざがあります。何をすることも、
まず基本を見据えることが大事です。
新しい時代への教育も、目新しさ
よりも、まず教育の本質的なところ
に目を向け、それをより確かにする
ところから出発したいものです。



平成15年度 学校教育の視点

学校教育に求められているものは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、児童生徒のすぐれた個性を伸ばす教育を展開することが大切である。そのために学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、学校と家庭と地域との連携のもとに信頼される教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進
- 一 「豊かな心」と「たくましい体」を育む教育の推進
- 一 特色ある学校、開かれた学校づくりを通じた「信頼される学校経営」の推進

基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び自ら考える力など『生きる力』を育む教育を目指した、新しい学習指導要領が実施されて一年が経過した。各学校においては、創意工夫を生かした特色ある教育、開かれた学校づくりを進め、子供たちの『生きる力』の育成に向けた実践がなされてきた。

実施二年目となる本年度は、昨年度の反省をもとに、また学習指導要領の趣旨・ねらい等を再確認し、学校全体の教育計画の実現に向け全力を尽くしたい。

一 「学ぶ喜び」を味わわせ、「確かな学力」を育む学習指導の推進

子供には、本来知りたい、学びたい、分かりたい、できるようになりたいという欲求がある。その欲求を、学ぶ楽しさ・喜びとして高め、わかる授業を通して、意欲をもって生涯を生きぬく基礎的な力の定着を図りたい。そのために、次の二点に留意した指導をしたい。

第一は、周囲を取り巻く学習事象について、自分なりに気づき、目を向け、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。それによって、もっと知りたい、調べたいという意欲が強くなり、意欲的な学びが促進される。そのことで、子供たちは学ぶことの楽しさや喜びを知り、



生きて働く確かな学力を身につけることにつながる。そして、子供一人一人を見つめ、個性を生かすことにも心がけたい。また、学びをより効果的にするために、常に評価の観点や基準に照らし合わせ、個々の学びが確かなものになっているかを見極める必要がある。

第二は、基礎的・基本的な内容の厳選である。子供が生涯にわたって成長と発達をしていくための基礎・基本を明確にし、繰り返し学ぶことにより確実に身につけるようにさせたい。基礎・基本の定着なくしては、確かな学力、将来に生きて働く力の育成はおぼつかない。

二 「豊かな心」と「たくましい体」を育む教育の推進

子供たちを取り巻く環境を考慮したとき、豊かな人間性とたくましい体を備えた人間として、調和のとれた子供の育成を一層重視する必要がある。

「豊かな心」については、他とかかわり合いを通して育み、磨き上げていくことが求められる。人とかかわる場面においては、思いやる心、感謝する心、我慢する心などをもつことが大切である。誠意ある行動がとれば、相手は心地よく受け止めることができる。人間らしい心も育まれることになる。そのことが起点

となって、互いの信頼関係が深まり、人としての豊かな心が醸成されていく。また、教師の人間性が、子供の人格形成に与える影響力は大きい。教師自身が正義と倫理を貫き、自己研鑽に励み、子供の手本にふさわしい豊かな心と人格を磨き上げたい。

「たくましい体」を育成することは『生きる力』に直結するものである。体力の向上及び心身の健康の増進を図るには、体育科の時間だけでなく、全教育活動や体験活動等を通じて行う必要がある。また、家庭や地域との連携を図り、日常生活における体力や健康にも留意させたい。

三 特色ある学校、開かれた学校づくりを通じた『信頼される学校経営』の推進

豊かな心の育成、自ら学び自ら考える力の育成、基礎・基本の定着や個性を生かす教育等の学習指導要領のねらいを実現するためには、特色ある学校づくりや開かれた学校づくりがその基盤となる。そこで、各学校が子供たちや地域の実態等を踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することが大切である。特色ある学校づくりの一つとして

「総合的な学習の時間」や「選択教科」など、学校や子供の実態を踏まえた取組が重要になる。子供たち一人一人の問題意識を大切に授業

展開を考えたい。

例えば、学校外から講師を招くなど、専門家に学ぶ機会を活用したい。子供たちは、知識・技能等を学ぶとともに、その道の一流の人との出会いを通して生き方を学び、夢をもつことができる。また、その成果を保護者や地域に発信することで、子供たちに達成感をもたせることができる。

一方、学校の教育目標・教育計画を示し、学校のねらいを知ってもらうことも必要である。学校だよりやホームページで、子供の日常の学校生活等を知らせたい。また、自由参観週間を設け、自由に学校へ来て、子供の学習の様子も見てもらいたい。さらに、オピニオン・サークルの活動を通して、子供・保護者・地域の人々の意見を取り入れるとともに、中学校区児童生徒健全育成協議会等を中心に、学区全体で子供たちを育てていくことも重要である。

以上、三つの指導の重点にそった教育活動に力を入れていきたい。そのために、教師は教育の専門家としての使命感をもち、愛情に満ちあふれたねばり強い取組が必要である。各学校においては、校長のリーダーシップのもと、指導体制の確立を図り、全職員一丸となった子供の健全育成を展開したい。そして、教育活動についての評価をしながら、信頼される学校づくりに邁進したい。



●教育最新情報

○確かな学力の育成

新学習指導要領の下での学習が始まって一年が過ぎた。教科の基礎・基本は児童生徒に身に付いただろうか。思考力や判断力は向上しただろうか。

新しい年度の学習を始める

平成十三年度教育課程実施状況調査の結果を受けて

今回の調査結果によれば、平成十三年度までの学習指導要領の目標や内容に照らした児童生徒の学習の状況は、全体としておおむね良好であったと考えます。これは、各学校や各教育委員会において、学習指導要領のねらいの実現のために熱心に取り組んでこられたことの結果の現れであると考えます。

：（中略）：

に当たり、客観的な基準で学力を把握し、指導の具体的な手立てを立てる必要がある。

文部科学大臣は、教育課程実施状況調査結果を受けて、左のようなコメントを発表した。学力に関し、おおむね良好としながらも、仔細に見ると、一部の児童生徒の学習の状況が必ずしも良好とは言えない。

今回の調査結果を踏まえ、文部科学省としては、更にその詳細な分析を進め、指導上の問題点を明らかにし、新しい学習指導要領の下で、児童生徒に自ら学ぶ意欲を育むとともに、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら課題を見付け、判断し、よりよく問題を解決する力などの「確かな学力」を育むための学習指導の改善を一層推進していきたいと考えています。

各学校、各教育委員会においても、今回の調査結果を踏まえ、

ないものも見られたとしている。

岡崎市も、同じ問題を調査したところ、五教科すべてにおいて、全国の正答率をほぼ上回っている結果を得ているが、各学校は、さらにきめ細かな情報を分析して学力の把握に努めてほしい。また、ペーパーテストでは判断できない学力も見極め、指導方針を立ててほしい。

目標準拠の絶対評価の導入の意図は、指導と評価の一体化にある。各教科の目標を単元ごとに明確にし、評価規準を教師間で共通理解して臨みたい。

児童生徒の学力の状況を適切に把握するとともに、習熟度別指導などの指導方法の工夫や教材の開発など、「わかる授業」の実現等に向けた取組の一層の改善・充実に努めていただきたいと考えます。

：（後略）：

平成十四年十二月十三日

文部科学大臣

遠山 敦子

●各所だより

完全学校週五日制となり一年が過ぎた。子供たちの健やかな成長のための新鮮な取組が求められる。

▼少年自然の家

昨年度の十七主催事業の他に、さらに四事業（春の史跡探訪OL・初夏の虫ウォッチング・火星の大接近を観る会・七草がゆと竹工作の会）を新設。また、会員制「ネーチャークラブ」も年八回と充実。

▼ハートピア岡崎

次の三点を重点とする。

○臨床心理士との協力による教育相談の一層の充実

○施設訪問など社会的体験活動の重視

○学校訪問、家庭訪問による学校、家庭との連携強化

▼教育研究所

平成十五年七月より、税務署跡地に移転となる。教育文化館として、さまざまな研修等も開催予定をしている。

平成十三年度教育課程実施状況調査問題等の複製使用も整備済なので活用されたい。



▲子供に寄り添う指導（愛宕小）

国立教育政策研究所は、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」を提示している。その中で、研究開発に当たったの留意点を五つにまとめている。各校で規準を作成するにあたり参考にされたい。

①自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを含めて学習状況を適切に評価する。

②指導に生かす評価をする。

③教員にとって過大な負担とならず、評価の改善に生かす。

④学校における評価の研究や実践の成果を生かす。

⑤保護者や児童生徒にとって理解しやすい表現にする。

なお、本年度、教育課程研究委員会で、岡崎市の評価規

●表彰

◆中学生非行防止ポスター

県警察本部長賞

矢作中 三年 土田 昌宏

県教育委員会賞

附属中 一年 上田 仁美

県少年補導委員会連合会長賞

岩津中 三年 市川 久乃

◆第十五回リトルアーティスト

ト絵画コンクール

金賞

甲山中 三年 大林 巧

朝日新聞社賞

城南小 四年 分寺 杏介

葵 中 一年 高橋 遼至

銀賞

上地小 五年 榎本 香里

竜美丘小 六年 伊藤 崇紘

附属中 一年 水野 恵理

葵 中 三年 井戸いづみ

◆平成十四年度福祉体験作文

コンクール

◆第四回東海ブロック小学生

バレーボール新人大会

男子優勝 矢作南小学校

◆第十一回上廣道徳教育賞

中学の部 優秀賞

矢作北中 清水 孝治

心に響く道徳教育をめざして

―中―「人が喜ぶこと喜ばないこと」の実践を通して―

◆平成十五年度新任教員

新任教員の配属は、次のとおりである。

●小学校(四十八名)

梅園小 渡邊 勇樹

根石小 小柳めぐみ

荒館小 荒館 梢

美合小 杉原 知

緑丘小 森下 恵

羽根小 梶田 章浩

岡崎小 大久保仁志

六名小 金丸 和章

三島小 林 恵理子

竜美丘小 吉川 延宏

連尺小 箴井かおり

広幡小 小林佐知子

井田小 石井 幹平

愛宕小 鏡味 正道

福岡小 仲澤 壮平

竜谷小 西井 一博

藤川小 増野 隆

山中小 井上 葉子

本宿小 木村 愛

秦梨小 関谷 知行

常磐東小 鈴木 郁

常磐小

細川小

岩津小

大樹寺小

大門小

矢作東小

矢作北小

矢作西小

矢作南小

六ッ美中部小

六ッ美北部小

六ッ美南部小

城南小

上地小

小豆坂小

北野小

六ッ美西部小

甲山中

三城

美川中

南中

梶浦 茜

小林 裕子

金子 晴美

鈴木 章友

佐藤 有紀

山崎 篤

高柳 真弓

石井 壮一

杉山亜希羽

河上 雅史

横山 詩穂

秀野 亜友

菅 美津枝

羽間 弘美

須藤 了一

原田 正美

太田 志帆

近藤 由恵

越野 和芳

棚田 祥代

村山 吉弘

岩本 隆幸

遠所 文子

新 育大

飯田ひとみ

中里 芳弘

キングあづさ

片瀨 陽一

山口 亜樹

入江 茜

飯田 広毅

神谷 孝志

浅井 有花

増田 恵

稲吉 麻美

鈴木美代子

鈴木 優介

齋藤 寛子

大洲 壮一朗

山田 志穂

神谷 直希

小島由起子

竜海中

葵 中

城北中

福岡中

東海中

河合中

常磐中

岩津中

矢作中

六ッ美中

矢作北中

竹内 和美

三城 千明

浅岡 径子

早川 淳司

浅川 晶紀

山本久美子

鈴木 淳子

柴田真奈美

浅井 有香

須藤 了一

原田 正美

太田 志帆

近藤 由恵

越野 和芳

棚田 祥代

村山 吉弘

岩本 隆幸

遠所 文子

新 育大

飯田ひとみ

中里 芳弘

キングあづさ

六ッ美北中

陽川 雅彦

大島 沙樹

委員長

加藤 政幸

副委員長

加納 隆

書記長

三浦 司

書記次長

神谷 明良

組織部長

加藤 嘉一

情宣部長

長谷川勝一

教文部長

坂元 干城

福対部長

中立 香

調査部長

荒河 昌吾

会計委員

稲垣 祐嗣

青年部長

林 正彦

女性部長

杉田ひろ子

副委員長

大西 和夫

青年部常任

原田 康成

◆平成十五年度愛教組執行委員

- 委員長 加藤 政幸
副委員長 加納 隆
書記長 三浦 司
書記次長 神谷 明良
組織部長 加藤 嘉一
情宣部長 長谷川勝一
教文部長 坂元 干城
福対部長 中立 香
調査部長 荒河 昌吾
会計委員 稲垣 祐嗣
青年部長 林 正彦
女性部長 杉田ひろ子
副委員長 大西 和夫
青年部常任 原田 康成



▲新任教師の集い(少年自然の家)

・カ
ツ
ト

六ッ美北部小 山中好乃



4Hクラブ発足 (昭和26年)

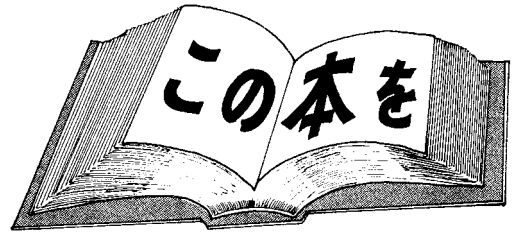
写真提供 美川中学校



昭和二十六年九月に、市の農政課のアドバイスで、4Hクラブ (head・hand・heart・health) が発足した。勤労学習・奉仕活動・助け合い学習の目的で作られた。当時は、職業科 (農業科) の中の選択として農業、工業、家庭科があり、4Hクラブでは、三十〜四十人の子供が様々な活動に取り組んでいた。

父親が病気で稲刈りができない家に、オート三輪で出かけて、稲を刈り脱穀をしたことが、新聞に大きく取り上げられたこともあった。

校庭の隅で、大根や椎茸などの農作物を作ったり、販売実習を兼ねて売ったりと、体験を通しての学習が行われていた。



- * 東井義雄のころ 山田 邦男 他 倭成出版社 ￥1600
- * わが人生の案内人 澤地 久枝 文藝春秋 ￥700
- * 良寛 心のうた 中野 孝次 講談社 ￥840
- * 「学力低下」をどうみるか 尾木 直樹 日本放送出版協会 ￥970

* しなやかな人間関係をつくる先生のちょっとした気くばり&マナー 飯田 稔 学事出版 ￥1800

「学校の常識は世間の非常識」と、語られて久しい。我々教職員にとっては厳しい指摘であるが、本書を読みながら反論できない部分が多いことが残念であった。

本書で著者は、様々な角度から学校内で行われている非常識に言及している。内容は、電話の応対から地域との連携や学校運営のあり方まで多岐にわたっているが、いずれも具体的な事例に基づいており、多くの同意を得る。学校教育に携わる者として是非一読したい本である。

往路トップランナーが新春の箱根路を駆け抜ける。己を鍛え厳しい練習を乗り越えて晴れ舞台に立つ。この走者が岡崎出身の若人となれば自然に応援にも熱が入る。

岡崎から日本、世界へはばたく若者がさらに増えるよう、我々教師も襟を正して日々の教育に邁進したい。

春宵一刻値千金というが、趣深いのは夜ばかりにあらず。鳥のさえずり、新芽の息吹、咲き競う花々、うらかな光の中でも多くの春を発見できる。春を愛でる心を持ちつつ、子供との出会いの中で子供の輝きをたくさん発見したい。さあ、平成十五年度、スタート。

シ オ ス ア

足を止め、無我夢中で自分の名前を探す子供たち。クラス発表のときめく一瞬である。出会いの四月、何もかも新鮮に感じられるこの季節。このきらきらした子供たちの瞳の輝きや思いを大切に、人としての成長を願い、今年も確かな力をつけていく一年にしたい。

スタートをした新学習要領が二年目を迎える。先日、「子供は、七つの節目を繰り返して大人になる」という講演を伺った。さしずめ、一年目の成長を果たしたと言える。学力低下論の批判で揺れ動いている中、成果を性急に求めることなく、長い目で成長を見てもらいたい。